

1963

ブリヂストン美術館

館報

11

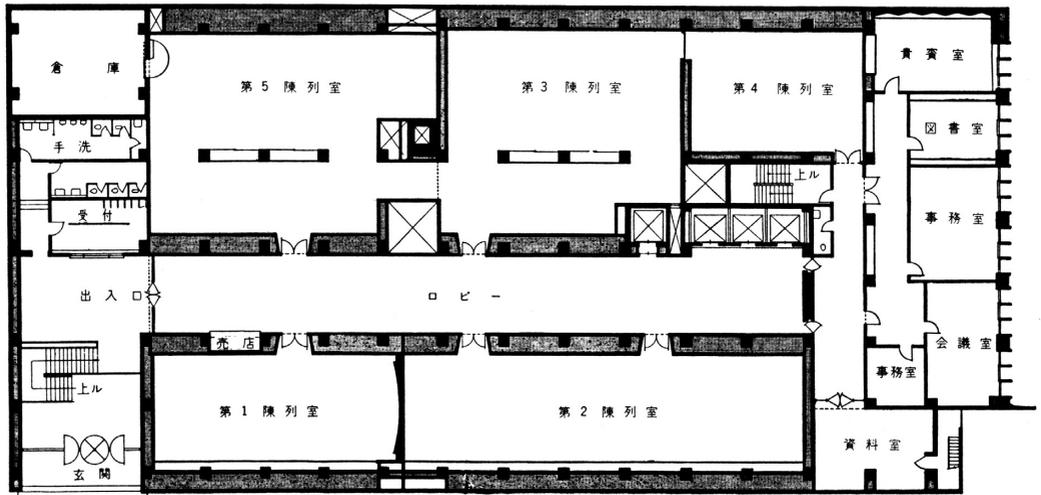
BRIDGESTONE GALLERY



1963
ブリヂストン
美術館
館報

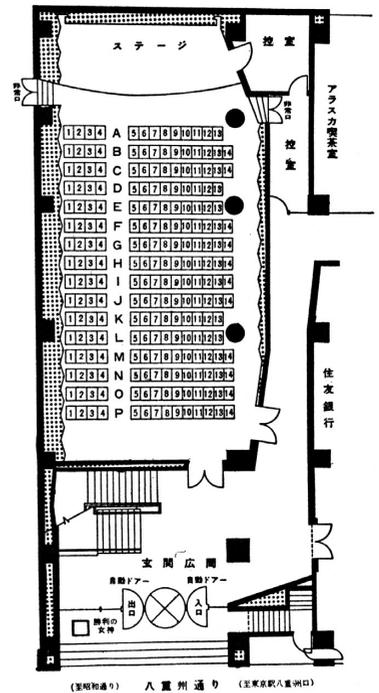
昭和37(1962)年度記録

[2 階 展 示 室]



目 次

1	表紙写真 (スメル彫刻「女の胸像」)
2	記録写真 写真頁
3	設立趣旨 2
4	位置・設備 2
5	機構・運営 2
6	開館時と入場料 3
7	37年度入場者一覧 3
8	渡仏名画展 4
9	ベニス・ビエンナーレ展出品作国内展示 4
10	ローマ日本会館備付作品内示展 5
11	アメリカ今日の美術102人展 5
12	主な日録 7
13	土曜講座 8
14	追加展示 9
15	開設10周年記念式典 9
16	渡仏展に関する記録 10
17	渡仏展について 石橋正二郎…13
18	フランスに旅して 石橋幹一郎…15 萩原大使
19	石橋コレクション展目録序文 石橋館長…17 ドリヴァル
20	パリの諸新聞に現れた反響 19
21	ブリヂストンのパリ里帰り展 團 伊能…27



〔1階ブリヂストンホール〕

(左昭和通り) 八重州通り (右東京駅八重洲口)

設 立 趣 旨

ブリヂストン美術館は、石橋正二郎氏が多年にわたって蒐集愛蔵した内外の美術品を、社会公共の為、広く一般の鑑賞に供し、文化向上の一端に貢献したいとの趣旨に基づき、昭和27年1月、ブリヂストンビルディング建設の機会に開設されたものであり、その充実発展を期するため、昭和31年4月設立された財団法人石橋財団がその経営を継承し、尚、昭和34年5月には面積が二倍に拡張されると共に、設備に大改良を加えた新装工事が完成した。

位 置 ・ 設 備

- 名 称**——本美術館は“ブリヂストン美術館”と称し、英文では“BRIDGESTONE GALLERY”と記す。
- 位 置**——東京都中央区京橋一丁目一番地の一 ブリヂストンビルディング1, 2階
国電・東京駅八重州口下車。 都電・通三丁目下車。 地下鉄・京橋又は日本橋下車
- 面 積**——ブリヂストンビル2階全部と1階に講堂等、約800坪 (2645 平方米)
- 部 屋 割**——第1陳列室, 第2陳列室, 第3陳列室, 第4陳列室, 第5陳列室, ロビー, 貴賓室, 会議室, 図書室, 事務室, 倉庫, ブリヂストンホール
- 照 明**——乳白色アクリライト付特殊ルーバー, 蛍光灯と白熱灯の併用, 壁面照度平均300ルクス
- 換 気**——エアーコンディションによる換気及び冷暖房, 湿度等自動調整

機 構 ・ 運 営

美術館は、財団法人石橋財団に所属し、その運営は運営委員会に委ねられている。機構次の通り

- 石 橋 財 団 理 事 長** 石橋正二郎
- 理 事 団** 伊能, 石井光次郎, 野田俊作, 君島武男, 石橋幹一郎, 富永惣一, 鳩山威一郎
- 監 事** 加嶋五郎, 成毛収一, 郷 裕弘
- 評 議 員** 石橋正二郎, 団 伊能, 石井光次郎, 君島武男, 石橋幹一郎, 富永惣一, 加嶋五郎, 鳩山安子, 竜頭文吉郎, 谷口弥三郎, 成毛典子, 石井公一郎, 鶴沢 晋, 佐藤尚武, 木下俊夫
- 事 務 局 長** 木下俊夫
- ブリヂストン美術館顧問** 細川護立, 大原総一郎, 高橋誠一郎, 上野直昭, 矢代幸雄, 松方三郎, 浅野長武, 坂本繁二郎
- 参 与 館 長** 野間清六, 久保貞二郎, 山田智三郎, 松本栄一, 秋山光夫
石橋正二郎
- 運 営 委 員 会 委 員 長** 団 伊能
- 委 員** 今泉篤男, 伊原宇三郎, 石橋幹一郎, 富永惣一, 嘉門安雄, 河北倫明, 谷 信 一
- 事 業 部 長** 岩佐 新 **庶務・事業課長** 六条隆次 **学 芸 員** 穴沢えみ子

開館時と入場料

開館時間 午前10時～午後5時30分
 休館 毎月曜日、年末12月28日～1月4日
 入場料 (一人) 一般 ¥50, 学生 ¥30, 12歳未満 ¥20
 (団体) 一般 ¥40, 学生 ¥20, 12歳未満 ¥10
20人以上
 尚、特別展の場合は、変更することがある。

昭和37年度入場者一覧

	一般	学生	小人	団体	合計	フリーパス	総計	有料者 一日平均
1月	3,097	1,435	40	220	4,792	123	4,915	208
2月	3,618	1,853	50	78	5,599	429	6,028	233
3月	10,170	5,413	170	239	15,992	832	16,824	592
4月	4,050	1,903	50	69	6,072	633	6,705	243
5月	3,663	1,588	28	119	5,398	161	5,559	200
6月	3,907	1,539	36	884	6,366	325	6,691	245
7月	3,988	2,216	73	184	6,461	254	6,715	249
8月	5,300	3,689	123	197	9,309	280	9,589	345
9月	4,957	2,546	69	82	7,654	217	7,871	294
10月	4,938	2,868	54	399	8,259	200	8,459	318
11月	7,007	4,313	81	1,239	12,640	772	13,412	486
12月	3,779	2,614	61	92	6,546	169	6,715	298
合計	58,474	31,977	835	3,802	95,088	4,395	99,483	312

有料者一日平均は、開館実数をもって算出したものである。

渡 仏 名 画 展

(2月27日～3月25日)

パリに於ける当館作品展覧会のために送ることに決った作品50点を当館第3陳列室に陳列した。

1	ドラクロア	馬習作	26	ル ソ ー	飛行船のある風景
2	コ ロ ー	ツータン農場	27	ゴ ー ガ ン	庭の中の家
3	〃	瓶を持つイタリーの女	28	〃	女の顔
4	ド ー ミ エ	観劇	29	〃	プルターニュー風景
5	ド ー ビ ニ ー	漁場	30	シニヤック	港
6	ク ー ル ベ	海	31	ボ ナ ー ル	夜の室内
7	モンチセリ	公園の貴婦人	32	〃	桃
8	ピ サ ロ	プージヴァールのセース河	33	〃	海岸
9	〃	ポントアーズの菜園	34	〃	ヴェルノン風景
10	マ ネ	オペラの仮装舞踏会	35	マ チ ス	画室の裸婦
11	ド ガ	浴後	36	〃	コリウール海岸
12	シスレー	マルロットの村の道	37	〃	縞ジャケット
13	〃	サン・マメス六月の朝	38	〃	横たわる裸婦
14	セザンヌ	静物 (鉢と牛乳入れ)	39	〃	オダリスク
15	〃	リンネルの上の果物	40	ル オ ー	ピエロ
16	〃	サント・ヴィクトアール山とシャトー・ノアル	41	〃	裁判
17	〃	帽子をかぶった自画像	42	ヴラマンク	風景
18	モ ネ	洪水	43	デュフィ	静物
19	〃	海 (プルターニュー・ペリール)	44	ド ラ ン	自画像
20	〃	睡蓮	45	ユトリロ	サン・ドニ運河
21	〃	ヴェニス夕陽	46	ピ カ ソ	風景
22	ルノアール	カーニュのテラス	47	〃	女の顔
23	〃	ガブリエル	48	〃	卓子掛の上の静物
24	〃	坐る浴女	49	ブラック	梨
25	ル ソ ー	牛のいる風景	50	シャガール	ヴァンスの新月

第31回ベニス・ビエンナーレ国際美術展 出品作品国内展示会

(3月20日～3月23日)

国際文化振興会、国際美術協議会、及び当館の主催、当館第4陳列室に於て開催。

1	江見絹子	作	1	9	杉全直	作	B	17	向井良吉	蟻の城	B
2	〃	〃	2	10	〃	〃	C	18	〃	〃	C
3	〃	〃	3	11	〃	〃	D	19	〃	〃	D
4	〃	〃	5	12	〃	〃	E	20	〃	〃	E
5	〃	〃	6	13	〃	〃	4	21	〃	〃	F
6	〃	〃	7	14	〃	きっこう	A	22	〃	〃	
7	〃	〃	8	15	〃	〃	B	23	〃	〃	
8	杉全直	作	A	16	向井良吉	蟻の城	A	24	〃	〃	

ローマ日本会館備付絵画墨蹟内示展

(7月3日～7月5日)

国際文化振興会主催，当館第5陳列室に於て開催。

- | | | |
|------------|----------------|------------------|
| 1 堂本印象 聚 | 8 山口 薫 娘の顔 | 15 富岡鉄斎 山水図 |
| 2 森田子竜 脱 | 9 児玉希望 瀑音 | 16 寂 巖 太平 |
| 3 山口蓬春 花菖蒲 | 10 棟方志功 華狩板壁画 | 17 一遍上人絵巻残欠 |
| 4 前田青邨 紅白梅 | 11 篠田桃紅 懷 | 18 岩田藤七 硝子花瓶 |
| 5 斎藤義重 血と砂 | 12 手島右郷 無 | 19 加藤土師蒔 蒔黄金欄手蓋物 |
| 6 東山魁夷 緑の岡 | 13 岡田謙三 Purple | 20 内藤四郎 金工六角飾宮 |
| 7 脇田 和 野火 | 14 浜口陽三 さくら | |

アメリカ今日の美術 102 人展

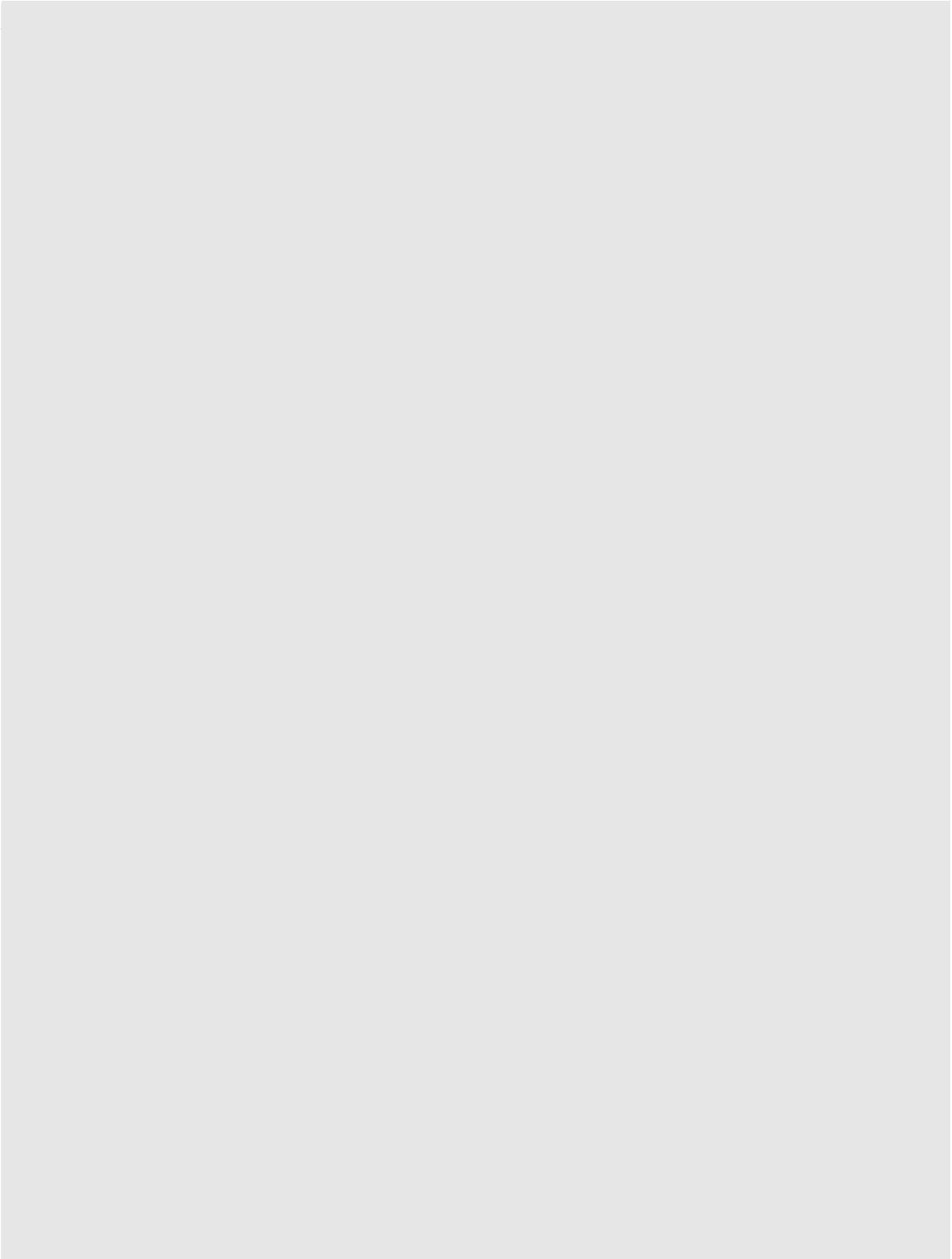
(11月13日～12月5日)

朝日新聞社と当館との共同主催，外務省，文部省，アメリカ大使館，及び国際文化振興会後援，当館第3,4,5陳列室に於いて開催。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 ハンス・ホフマン エメラルドの小島 | 23 フィリップ・エヴァーグッド ピアノの前の女 |
| 2 エドワード・ホッパー 陽のなかの人々 | 24 リー・ガッチ ヘロデ王 |
| 3 チャールス・シーラー 太陽と岩と樹木 No. 2 | 25 イザベル・ビショッフ 裸婦 |
| 4 ボール・バーリン A-1961 | 26 アドルフ・ガットリープ 三つの円盤 |
| 5 ジョージア・オキーフ ひとりぼっち | 27 ロバート・グワズミー 傍観者 |
| 6 ジョセフ・アルバース 不屈の正方形への敬意 | 28 カール・ザービー 踊る代表委員 |
| 7 ジョン・ヴォン・ヴィクト バロック | 29 ボール・キャドマス パー・イタリア |
| 8 マーク・トビー 秋の野 | 30 ウイレム・デ・クレーニング 女 VIII |
| 9 カール・クナッス 谷 | 31 バルカム・グリーン 陽光 |
| 10 エドウィン・ディッキンソン 自画像 | 32 岡田謙三 表明 |
| 11 ニコラス・ヴァシリエフ 白い皿のある静物 | 33 ピーター・ブルーム 榕樹 |
| 12 チャールス・バーチフィールド 十二月のオリオン座 | 34 ロルストン・クローフォード 1961年 No. 3 |
| 13 ミルトン・エイヴリー 春の果樹園 | 35 ギオルギー・ケペス 土地記録 |
| 14 スチュアート・デーヴィス 国際的表面 No. 1 | 36 ウイリアム・ソーン ローマのたそがれ |
| 15 エイブラハム・ラットナー モーゼ……われは | 37 エドワード・ミルマン 赤のバロック |
| 16 サミエル・アドラー フローレンスのある男 | 38 グレゴリオ・プレストピノー 四本の樹木のある秋の風景 |
| 17 ベン・シャーン 何が起ったか判らなかつた | 39 アイ・ライス・ペレイラ 鳴りわたる鐘に天国の門はゆらめく |
| 18 ラーフェル・ソニャー 二人の少女 | 40 ケネス・キャラハン 旋風の中の声 |
| 19 ジャック・トウォーコフ 金曜日 | 41 ウォルター・ムルチ 時計の顔 |
| 20 ジュリアン・リーヴィ レヴィアサン | 42 ジョン・ヘリカー 家のあるメイン州の風景 |
| 21 アジャ・ヨンカース 密使 | 43 ローレン・マクアイヴァー マンハッタン |
| 22 リコ・レブラン 水の中の姿 | 44 フランズ・クライン マース C |

- | | | | | | |
|----|---------------------|-------------------------------------|-----|----------------------------|--------------------|
| 45 | ジョセフ・ハーシ | コロネーション | 74 | ジミー・
エルンスト | シャープヴィルの静寂 |
| 46 | モーリス・
グレーヴス | 機械時代の騒音の中の春 | 75 | ジョージ・
トゥッカー | 待合室 |
| 47 | ミッチェル・
シボリン | 死と少女 | 76 | ポール・
ウォンナー | 寝室 |
| 48 | ウイル・
バーネット | ポシタノ | 77 | グレース・
ハーティガン | パラス・アテナ 土 |
| 49 | カール・モーリス | 戸口 | 78 | リオン・ゴーラブ
シオドロス・ | 頭 I 1961年 |
| 50 | ウィリアム・
コングドン | 聖パウロの改宗 | 79 | スタモス | 白い野 VII |
| 51 | フリリップ・
ガストン | 画家 III | 80 | リチャード・
ディーベンコーン
ジョン・ | オークランド風景 |
| 52 | マルゴ・ホック | 聖像 | 81 | ハルトバーグ | 夜あけの煙 |
| 53 | ウィリアム・
バジオーティーズ | 王の笏 | 82 | サム・フランシス | 青い球 |
| 54 | アーサー・
アズヴァー | 航海 | 83 | デヴィッド・
アロンソン | エデンの園 |
| 55 | アド・
ラインハート | 抽象画 No. 4 | 84 | ポール・
ジェンキンズ | 現象 リング・ラング・ラ
ング |
| 56 | コンラッド・
マーカレリ | 鋼灰色 | 85 | リオン・
ゴルディン | 海辺の女 |
| 57 | ウォルター・ステ
ュームフィッグ | ある島の幻影 | 86 | エルズワス・
ケリー | 白の上の青 |
| 58 | ウィリアム・
カインブッシュ | 海の庭園, リットル・ダッ
ク・アイランド | 87 | ハーバート・
カッツマン | 画家の家族 |
| 59 | ジャック・
レヴィーン | 芸術愛好者 | 88 | ジョーナ・
キングスタイン | 道化役者の中のキリスト |
| 60 | ロバート・
マザウエル | 怪物 (チャールス・アイヴ
ユのために) | 89 | ラリー・
リヴァース | 雨のアニタハフフィントン |
| 61 | ルス・ギーカウ | 台所 | 90 | アル・
ブラウスタイン | 三角関係 |
| 62 | ローレンス・
カルカニョ | 長い旅 | 91 | ズーベル・カチャ
ドゥーリアン | 大洋の像 |
| 63 | エルマー・
ピシヨフ | 二人の水浴者 | 92 | ジェームス・
カーンズ | エ・プルリブス・ウヌム |
| 64 | リチャード・
プーセットダート | 白いゴシック No. 5 | 93 | ウォルター・
プレート | 哨兵 No. 4 |
| 65 | ルウベン・タム | 光の岸 | 94 | シーグフリード・
ラインハート | 生存者 No. 2 |
| 66 | アンドルー・
ワイエス | かかし | 95 | ロバート・
ラウシェンバーグ | 貯水池 |
| 67 | ロバート・
グッドナウ | 誘拐 XI | 96 | ジョーン・
ミッチェル | マーリン |
| 68 | ジェイコブ・
ローレンス | 図書館 | 97 | ジャック・
キャンガマン | 7月26日 |
| 69 | ミルトン・
レズニック | 車輪 | 98 | ロバート・
ダリスタ | カーテンの間の姿 |
| 70 | ハイラム・
ウィリアムス | 夢魔 | 99 | エルウィン・
チェンバレン | 絶望の沼のキリスト教徒II |
| 71 | バーナード・
パーリン | 酒場 | 100 | ネイサン・
オリヴィエラ | 1929年 |
| 72 | ウォルター・
メイグス | 大砂丘 | 101 | アーサー・岡村 | ユーカリの林の迷い犬 |
| 73 | ジョン・
ウィルディー | わが家の幸福な気ちがいじ
みたアメリカの動物たち
と男と女 | 102 | リチャード・
ライトル | 洞穴 |

主 な 日 録



土 曜 講 座

通算 回数	月 日	講 座 題 目	講 師	通算 回数	月 日	講 座 題 目	講 師
405	1. 20	スライドによる近世日本絵画史講座		431	8. 18 (19)	山口蓬春氏, 谷 信一氏	
		(1) 桃山時代の風物	高柳光寿氏	432	8. 25 (20)	斎藤義重氏, 今泉篤男氏	
406	1. 27	(2) 風俗画	中村溪男氏	433	9. 1 (21)	野間仁根氏, 今泉篤男氏	
407	2. 3	(3) 光悦	堀江知彦氏	434	9. 8 (22)	鳥海青児氏, 富永惣一氏	
408	2. 10	(4) 宗達	野間清六氏	435	9. 15	パリ国立近代美術館に於ける ブリヂストン美術館展について 報告及び映画	
409	2. 17	(5) 光琳	今泉篤男氏			団 伊能氏, 富永惣一氏	
410	2. 24	(6) 玉堂	土方定一氏	436	9. 22	カラスライドによる フランス 20 世紀絵画	
411	3. 3	(7) 大雅	鈴木進氏			(1) ナビス派 石川公一氏	
412	3. 24	私の芸談 (対談会)		437	9. 29	映画「美術家訪問」1~4 巻	
		(1) 海老原喜之助氏, 河北倫明氏		438	10. 6	カラスライドによる フランス 20 世紀絵画	
413	3. 31	(2) 村井正誠氏, 今泉篤男氏				(2) 立体派 高階秀爾氏	
414	4. 7	(3) 堅山南風氏, 河北倫明氏		439	10. 13	(3) 巴里派 坂崎二郎氏	
415	4. 14	(4) 林 武氏, 富永惣一氏		440	10. 20	(4) 超現実派 瀬木慎一氏	
416	4. 21	(5) 吉岡堅二氏, 嘉門安雄氏		441	10. 27	(5) 抽象派 瀬木慎一氏	
417	4. 28	(6) 小糸源太郎氏, 今泉篤男氏		442	11. 3	(6) 野獸派 針生一郎氏	
418	5. 12	(7) 三岸節子氏, 嘉門安雄氏		443	11. 10	私の芸談 (対談会)	
419	5. 19	ベルシア, ペルセポリスの 遺跡を見て	団 伊能氏			(23) 山本豊一氏, 伊原宇三郎氏	
420	5. 26	私の芸談 (対談会)		444	11. 17 (24)	西山英雄氏, 河北倫明氏	
		(8) 郷倉千鞆氏, 河北倫明氏		445	11. 24 (25)	山口薫氏, 岩佐新氏	
421	6. 2	(9) 平櫛田中氏, 岩佐新氏		446	12. 1 (26)	中村研一氏, 今泉篤男氏	
422	6. 9	(10) 森 芳雄氏, 嘉門安雄氏		447	12. 8 (27)	東山魁夷氏, 河北倫明氏	
423	6. 16	(11) 棟方志功氏, 嘉門安雄氏				特 別 講 座	
424	6. 23	(12) 金島桂華氏, 野間清六氏		11. 22	アメリカの現代美術について		
425	6. 30	(13) 福沢一郎氏, 岩佐新氏				瀬木慎一氏	
426	7. 7	(14) 宮本三郎氏, 嘉門安雄氏				ジョセフ・メッシング氏	
427	7. 14	(15) 小倉遊亀氏, 野間清六氏					
428	7. 28	(16) 児玉希望氏, 岩佐新氏					
429	8. 4	(17) 加藤栄三氏, 嘉門安雄氏					
430	8. 11	(18) 菊地一雄氏, 嘉門安雄氏					

追加新展示作品

- | | |
|---|--|
| <p>3月24日 ヌトリロ「オアシス」(素描)
 // チェリチェフ「静物」(油彩)
 // グトーゾ「アナカプリ風景」(素描)
 // フォートリエ「作品」(水彩)
 // ミロ「コムポジション」(石版)
 // ファッチーニ「裸婦」(素描)
 // クートー「トリアノンの娘たち」(油彩)
 // ザッキン「人物」(グワッシュ)
 // ロートレック「アリスチード・ブリュアン」(石版)
 // フレネー「静物」(水彩)
 // // 「素描」</p> | <p>3月27日 ドニ「バックナール」(油彩)
 // デスバニア「花」(//)
 // マルヴァル「花」(//)
 // リーベルマン「イタリーの少女」(//)
 // ビュッフェ「アナベル夫人像」(//)
 // ルノアール「赤ネクタイの男」(//)
 // カユボット「雪景」(//)
 8月6日 キリコ「吟遊詩人」(//)
 10月7日 佐伯祐三「鉄道工夫」(//)
 11月13日 メソボタミア(スメール期)「女の胸像」(閃緑岩)
 12月8日 エジプト「獅子」(石灰石)</p> |
|---|--|

ブリヂストン美術館開設十周年 記念式典に於ける石橋館長挨拶

本日は当美術館の開館十周年式典にあたりまして、只今永年勤続者の表彰式を致しましたところ、皆様御臨席頂き、まことに有難うございました。就きましては当美術館を開館致しました当時の思い出を話してみたいと思います。

昭和 25 年、私が第一回にアメリカに参ったとき、各地の美術館を見まして、私もコレクションを秘蔵しているよりも美術館を設くべきだと思いました。その当時は、日本の国全体が生活に追われて、文化などはそれほど問題とされていないように私は思っておりましたけれど、丁度ブリヂストンビルディングを建てた際でありましたから、仮設備で美術館を開館致しましたところが、各方面から非常に喜ばれてお祝を頂きまして、それ以来十年十カ月の間に参観者は百万人を越え、日本の文化の向上にかなり役立っていることを大変嬉しく思い、また感慨も深いものでございます。

その中で、私が特にこの際申したいと思えます業績は、昭和 31 年に石橋財団を設立致しましてから経営も楽になり、またコレクションも一段と充実するようになったことであります。

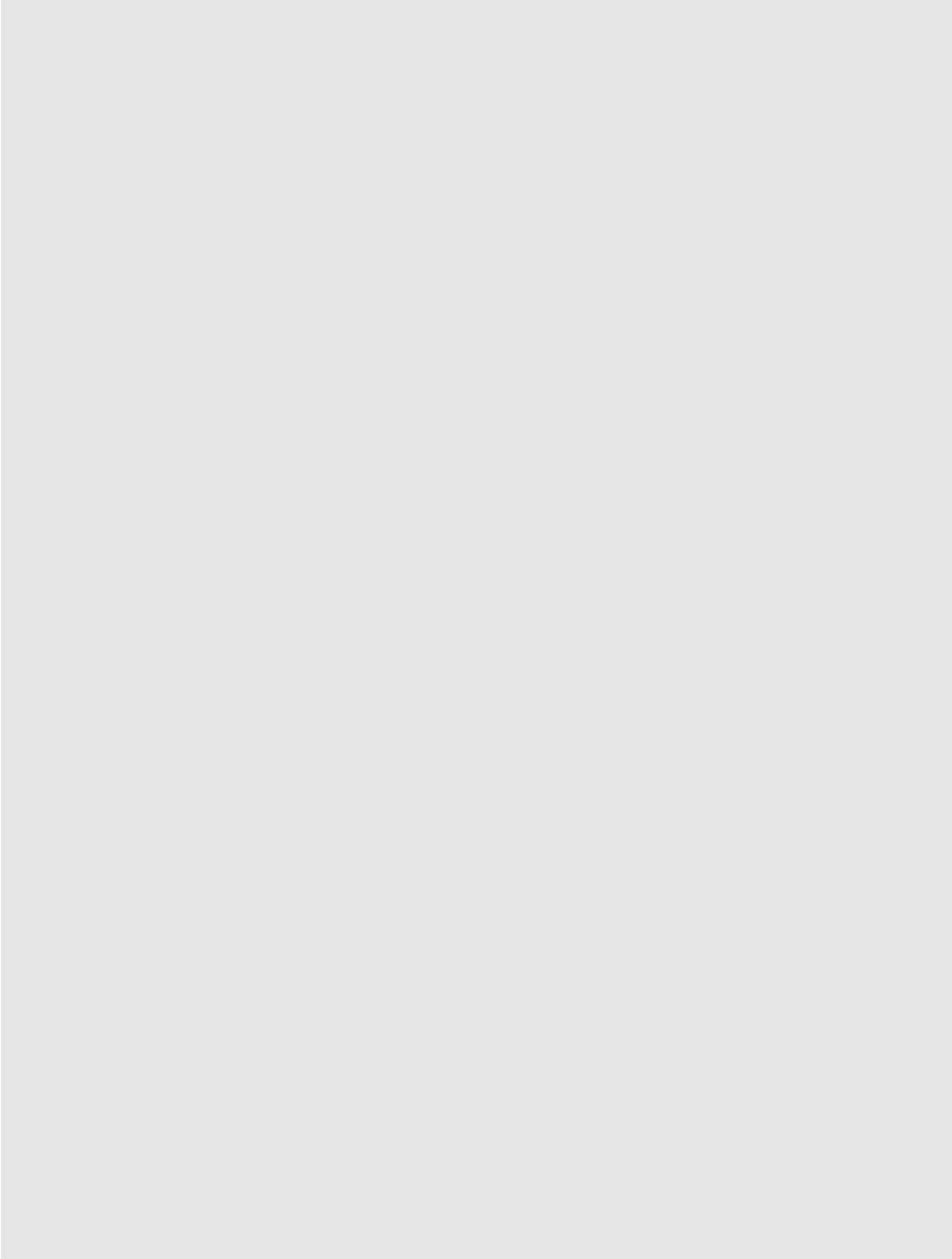
それから 34 年、このビルディングの増築に際しまして、美術館として永久的の設備を整えるため、床面積を二倍に拡張し、美術館にふさわしい本玄関と講堂を造り、それから彫刻室、貴賓室、図書室を新設し、展示室も五室となり、美術品の保存のため完全な倉庫もでき、美術館として恥かしくない堂々たる構えになりました。

それから、その年にヴェニスでのビエンナーレの日本館の寄贈、また同じ年に久留米の文化センター内に石橋美術館を開設致しております。

なお外国の名士がよく当美術館を訪問されて外国にも有名となり、いろいろ関係も出来て国際親善にもいささか貢献するようになり、私はフランス政府とイタリア政府からも表彰を受けたような次第であります。

それから昨年の秋、十周年の記念事業を何かやりたいと運営委員の方々とは相談致しておりました。ところが、はからずもフランスの国立近代美術館から懇望を受け、パリ展を催すことになり、私もあちらに参りまして、非常に歓待を受け、またコレクションに就きましても大変褒められ、私のコレクションが国際的にも名声を高めたことは望外の幸せで、これが期せずして十周年の記念事業になったのでございます。また戦後わが国には民間に沢山の美術館ができましたが、私が先鞭をつけ、またいろいろな意味におきましても当美術館ほど業績が上がったのではないと思う次第であります。これは私の力ばかりではありません。運営委員会の方々非常に熱心に御尽力下さったこととでございます。それにまた先刻表彰致しました皆さんが開館以来引き続いて心のこもった働きをして頂いたのが、この美術館を発展させた大きな力とございまして、今表彰状を差し上げました通りで、重ねて厚く厚く御礼を申し上げます。またこの美術館は永遠に続いていくものでありますから、この後尚一層御尽力頂きますよう皆さんに御願ひ致す次第でございます。

渡仏展に関する記録

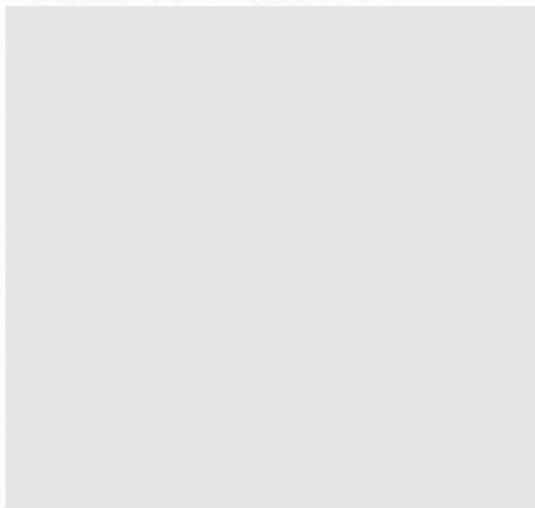


美術館友の会内覧

(約 500 名) 5 月 3 日午後 9 時～11 時。

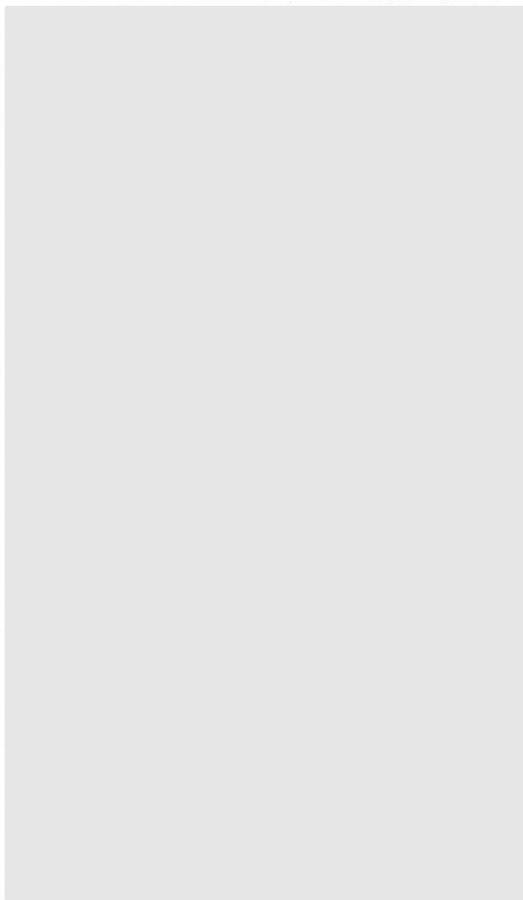
開 会 式

5月4日午前11時～12時。(午後3時より
の一般招待と合わせて約1,000名)



石橋館長主催レセプション

(165名) 5月4日午後6時～8時



東京石橋コレクション所蔵
コロイからブラックに至る
フランス絵画展

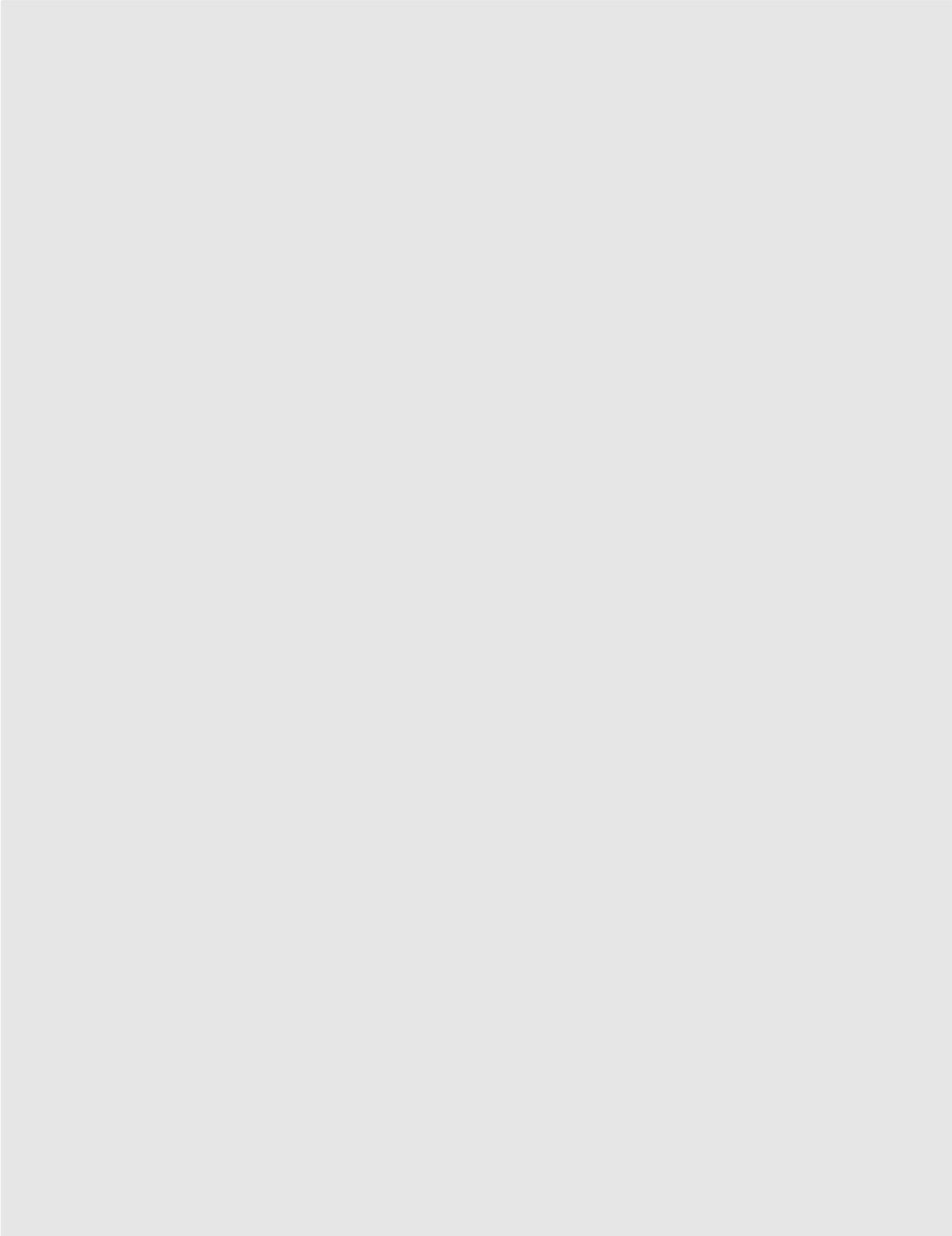
la peinture française
de corot à braque
dans la collection
ishibashi de tôkyô
au musée national
d'art moderne
du 4 mai
au 24 juin

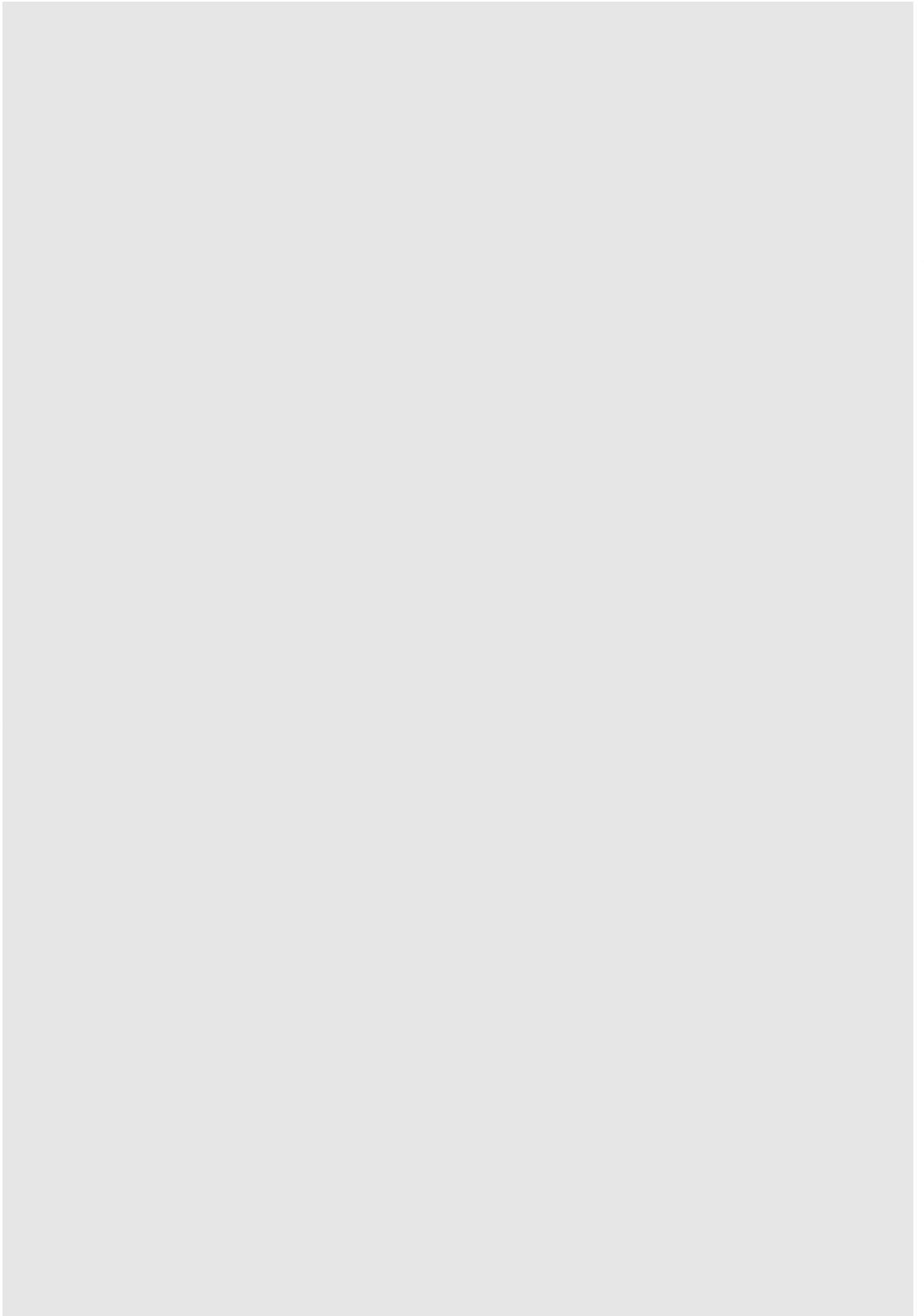
13 av Pt Wilson / ouvert sauf mardi / de 10 à 17 h

(ポスター)

パリにおけるコレクション展について

石橋正二郎





義宮殿下御来館（3月9日）

義宮は富永運営委員の御説明で、渡仏名画展その他長時間にわたり熱心に御覧になった。



渡仏名画展

（2月27日—3月25日）

アメリカ今日の美術102人展→

（11月13日—12月5日）

開会式に参列のライシャワー駐日アメリカ大使夫妻、
向って左より笠信太郎氏、石橋正二郎氏、ジョンソン商会代表者、大使夫人、大使、メッシング氏（アメリカ展キューレーター）

←サンフランシスコ美術館友の会一行来館

（10月25日）

ローマ日本会館備付絵画墨蹟
内示展（7月3日-5日、第5室）

開会レセプションに来場の国際文化
振興会々々長岸信介氏（上図）と小坂
外相（下図）

↓ハリマン夫人来館（3月18日）

米国々務次官補ハリマン氏夫人はレオンハルト公使夫
人と共に来館

↑ファイファー博士来館（10月6日）

中央がドイツ、フンボルト財団事務局長ハインリッ
ヒ・ファイファー氏

ローラ氏来館（7月19日）

→

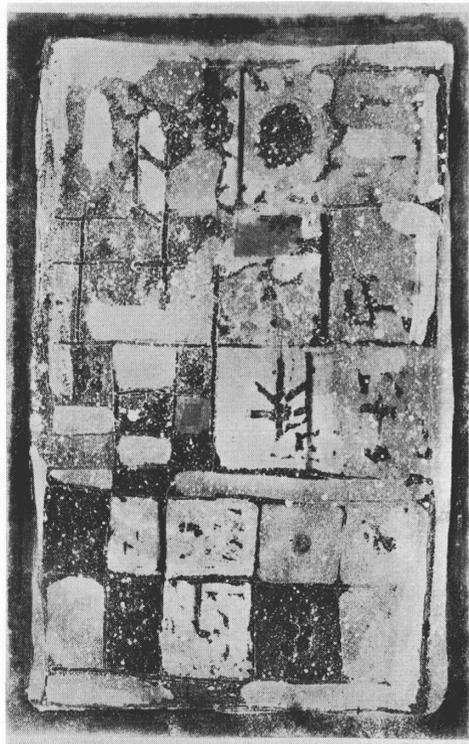
前列中央がローマ、フランス・アカデミー館長バルチ
ェス・ド・ローラ氏



ブリヂストン美術館開館10周年
記念式典（11月6日）

壇上、石橋館長の挨拶、向って左、石井光次郎氏、右、団運営委員長（右図）永年勤続表彰状を受ける岩佐主事

東京国際版画ビエンナーレ、ブリヂストン
美術館賞「ピッシェール作『緑』」



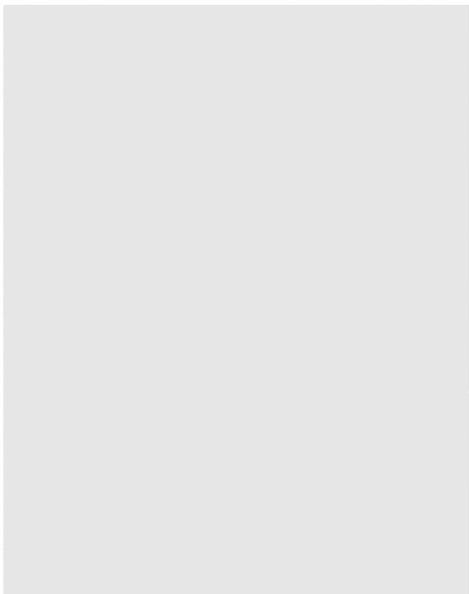
↑ 東京国際版画ビエンナーレ審査員
アルガン、レスタニー両氏来館（10月8日）
前列中央向って左、ジュリオ・カルロ・アルガン氏
右、ピエール・レスタニー氏

第31回ベニス・ビエンナーレ国際美術
展出品作品国内展示会
（3月20日—23日、第4室）

(新展示作品より)

キリコ

「吟遊詩人」



メソポタミヤ (スメル期)

「女の胸像」



ビュッフェ

「アナベル夫人像」



エジプト「獅子」



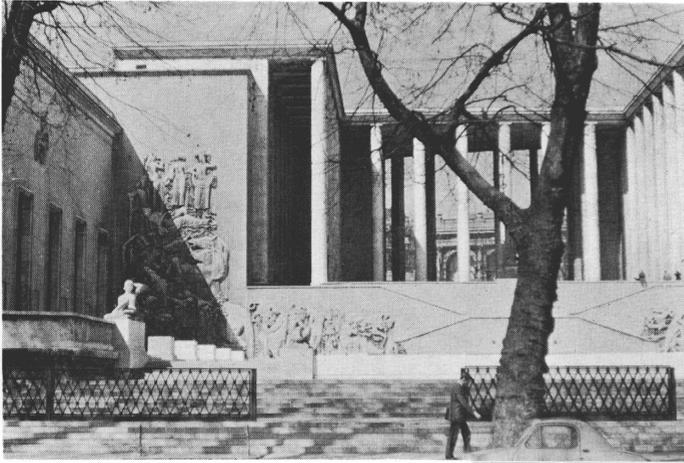
佐伯祐三

「鉄道工夫」

リーベルマン

「イタリーの少女」





パリ国立近代美術館（4月末撮影）

パリ国立近代美術館の
「コローからブラックに至る・東京石橋
コレクション・フランス絵画展」

（5月4日ー6月24日）

画報

（以下4頁）



会場入口（6月末撮影）



会場内部



パリ国立近代美術館友の会々員
の内覧会（5月3日夜）

開会日の会場内部（5月4日）

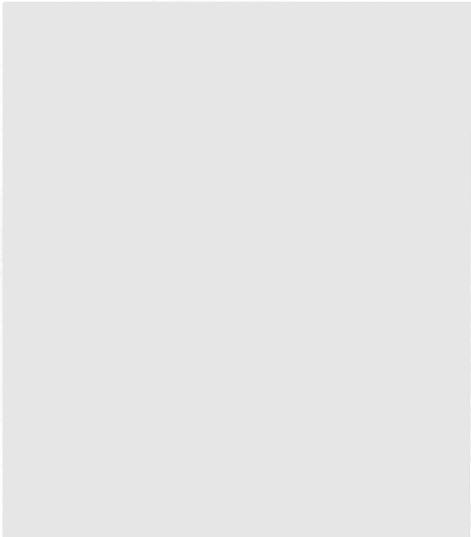
向って右三人目より、ドリヴァル氏
萩原大使、石橋館長

↓クーヴ・ド・ミュルビル外相に
小坂外相の親書を手渡す石橋館
長、中央は北原公使（5月2日）

↑開会日の会場玄関（5月4日）

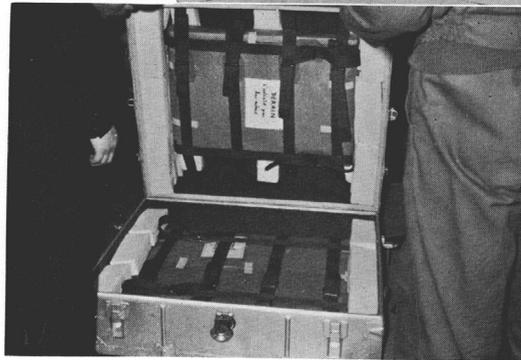
向って右よりドリヴァル氏、オーグ氏、館長カスー氏、エルリー氏と
握手する石橋館長、石橋夫人、一人おいて元フランス美術館総長サー
ル氏

ロワイヤル・モンソー・ホテル
に於ける石橋館長主催のレセプ
ション（5月4日夜） →



作品の清拭手入

会場内で作品の手入をしている
マレシャル氏、見ているのは石
橋幹一郎氏



コンテナ内部

オルリー空港で作品積荷

飛行機の真下にあるのが作品コンテ
ナー

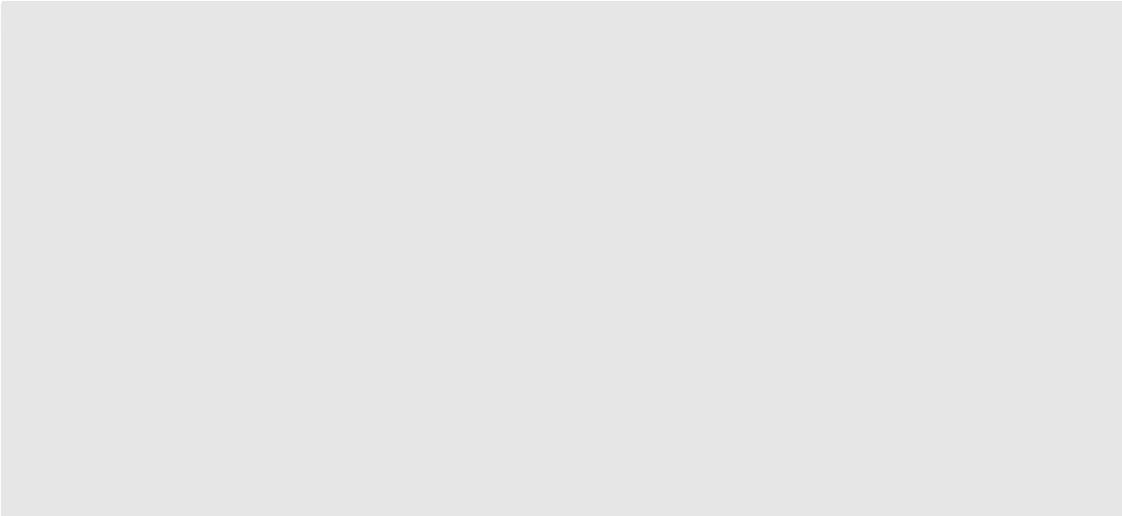
フランス送りの作品梱包はジュラルミンのコンテナ内部
両面に、エバソフットの枕を置き、両面に一枚づつ作品を
おさめて、バンドで締めた。
蓋の合せ目にもゴムを入れて水気のはいらないようにした。



コンテナ外部

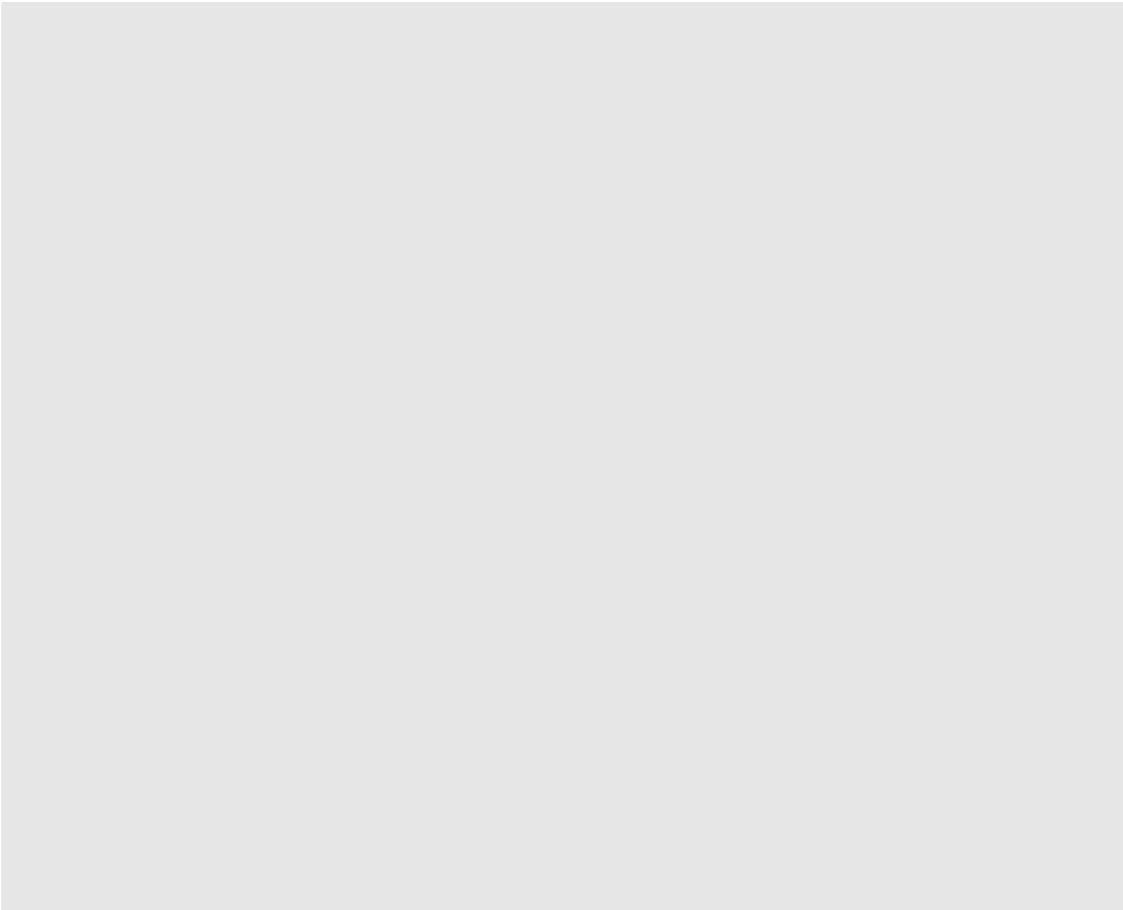


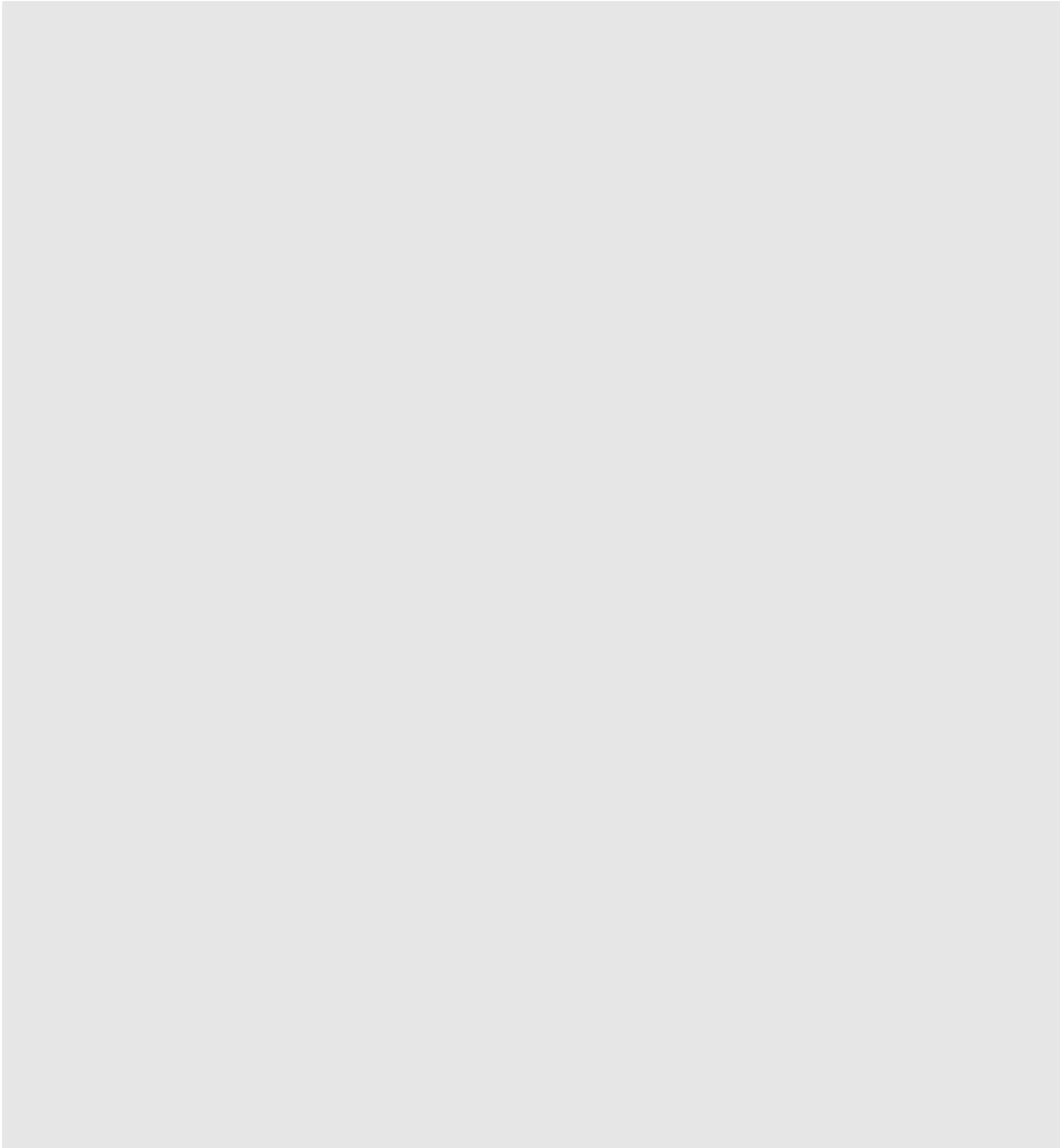
羽田空港に着いた作品の荷おろし



フ ラ ン ス に 旅 し て

石 橋 幹 一 郎





「石橋コレクション展目録」に寄せた 駐仏日本大使萩原徹氏の序文

東京の真只中、商業活動の中心地帯に於いて、大都会の喧騒な生活から逃れようとする人々にとって、一つの憩いの場所がある。そこには休息を求める勤労者、手に手をとって遊歩する恋人たち、また考えにふける学生たちの姿が見られる。これこそ石橋氏の蒐集になる美術館である。

この美術館はその辺りに立ち並ぶ他の建物とは風格を異にした上品な十階建の大ビルディングの二階にある。

この美術館の蒐集品はその大部分がフランス芸術家の作品で、200点以上の絵画と約50点の彫刻が集められている。これらの作品は、ブリヂストンタイヤ株式会社の所在する建物の中に、その蒐集品を展示した美術館をつくらうという独創的な着想を抱いた偉大なる実業家、そしてまた同会社の社長である石橋氏によって蒐集されたものである。

石橋氏は、おそらく公共的な感覚に恵まれた慧眼を持つ実業家であろうと思う。しかし同時にその蒐集する絵画の選択が示す如く、洗練された趣味の持主である。

コローよりブラックに至るこれらの優秀なフランス作品は、フランス公衆の鑑賞に供すべく、今日パリに里帰りして来た。フランスの皆さんはこれらの作品を一見すれば、なぜ東京の市民が、その都市の中心にあるその小美術館の中に、憩いの場所を求めているのか、またなに故この偉大な芸術愛護者石橋氏を誇りとしているのかを会得されることと、私は信ずる。

駐仏日本大使 萩原 徹

「石橋コレクション展目録」に寄せた 石橋館長の挨拶

今般、国立近代美術館の御懇望に依り、私のコレクション展が開催されることになりましたことを、心から欣快且つ光栄に存ずるものでございます。

私は五十数年前よりゴム工業家として事業経営に専念致して参りましたが、幼少の頃から特に絵が好きで、多忙な事業活動の余暇には美しい絵を鑑賞することを唯一無上の喜びとしております。私が美術のコレクションをはじめましたのは1930年頃からで、最初は日本人の油絵に興味をもっていましたが、次第にヨーロッパの絵画と彫刻に興味が広まりました。しかし、特に私の好みに最も合致したのはフランス印象派を中心とする作品でしたので、蒐集の主力をそこに注ぐようになりまして、非常な苦心をして集めてきた次第であります。

なお、私はこうして蒐集したコレクションを自分一人だけで愛賞するよりも、一人でも多くの人々に見てもらいたいと考え、1952年に東京の中心部にビルディングを作りました際、二階全部を陳列室にして、ブリヂストン美術館を開設しました。展示以来今日まで以上のフランス美術を中心とする内外美術の普及奨励につくすことができたのは何よりの喜びでありました。

今回はからずも、昨秋再度来日された国立近代美術館のドリヴァル副館長に、コレクションの充実に対する非常なお賞めと、同時にパリにおける展示のお申出をうけました。私は事の意外におどろきましたが、これらの諸作品がはるばると海を渡り、母国において公開されて、パリ市民の鑑賞をうけるということは非常な喜びでありますので、これをお受けした次第であります。

今回の催しが多くの方々へ喜ばれ、日仏間の友好をさらに深める一つの機会となりますよう祈念致しますと共に、今回のパリ展についてお世話いただきました関係者御一同の御努力に対し衷心より感謝いたします。

「石橋コレクション展目録」に寄せた ドリヴァル氏の石橋コレクション紹介

フランスから日本を訪れた人々に対して、日本の国が与えてくれる感激の中で、最も彼等の心に親しく触れ彼等を感じせしめるものは、一般フランス文化、特にフランス美術にむかって示される実に感動的な情景である。これほどフランス美術が賞讃評価され、これほどすべての人々、富めるもの、貧しきもの、教養あるもの、教養なきもの、老いたるも若きも、いな、子供にすらも親しまれるところは、どこにも無いであろう。それを物語るものとして1953年から1954年にかけて東京、福岡、京都に於いてチュルヌスキ美術館長ヴァディム・エリゼーフ氏によって学術的に構成された原始より19世紀中頃までのフランス美術の展示が催され未曾有の成功を収めた事実、また同様に、1840年から1940年に至るフランス美術の100年をテーマにして、私が企画展示した東京と京都に於ける展覧会の盛況を述べよう。この二つの都会の内、東京では1961年11月3日から1962年1月15日迄の間に725,000の来観者が殺到し、京都では765,000以上の人々が押しかけて来たのである。そうして目録の売上総数は360,000部に及び解説のオーディオ・ガイド（無線聴取器）の賃貸台数は170,000に上った。恐らく、曾つて、これほど多数の群集とこれほど激しい熱狂とをから得た展覧会はなかった。

フランス美術に対する日本人の愛着心のもう一つの証明を私は日本国内に於ける美術館とそのすばらしき蒐集の存在に見るのである。日本に於けるコレクションの内、その所蔵者の寛容な心からそれが公開の美術館になった倉敷の大原美術館と東京の石橋氏の美術館の二つを特筆しなくてはならない。今、パリの国立近代美術館がその館内に展示することを幸にして許されたものは、この後者のコレクションである。

もっと正確に云うなれば、そのコレクションの一部である。石橋氏の美術館は、エジプト、メソポタミア、イラン、イスパノモレスク、ビザンティン、ローマ、ゴシック等の実に豊富な陶器と彫刻と金工品とを所蔵しているのであるが、それ等のものは残念ながら危険で輸送することができない。その他にも誇るに足るべきリューベンス、レムブラント、ファン・ゴイエン、ゲーンズボロー、グアルディ、等の美しい古代作品がある。また、輸送の危険を冒すわけにいかないで東京に残さなくてはならなかったものの中には、マネ、ドガ、ルノアール等のパステル、マイヨールのテラコッタ彫刻、マネの巨大な「ブラン氏像」、ルオーの「郊外のキリスト」等があり、その他にもまだまだ移動を許さぬ作品が多数にある。であるから、パリの国立近代美術館がその壁面を提供したのは石橋氏の美術館のフランス絵画の一部にすぎない。しかし、この魅力に溢れた一部分だけでも彼等が愛情をもって守護してきた50点の傑作を二か月間にわたってフランスに預けることを承諾した石橋氏はじめ委員長団氏及び同美術館運営委員の方々に我々の感謝の真意を表明するに充分なのである。コロー、ドラクロア、ドーミエ、クールベ、マネ、ドガ、モネ、ピサロ、ルノアール、セザンヌ、ゴーガン、ルソー、ボナール、ルオー、マチス、ユトリロ、ピカソ、ブラック、その他一世紀半にわたる巨匠の作品は少しの例外を除き石橋氏によって集結され、氏によって日本に保存され、そうして、また、氏によって一時わが国に貸与された。

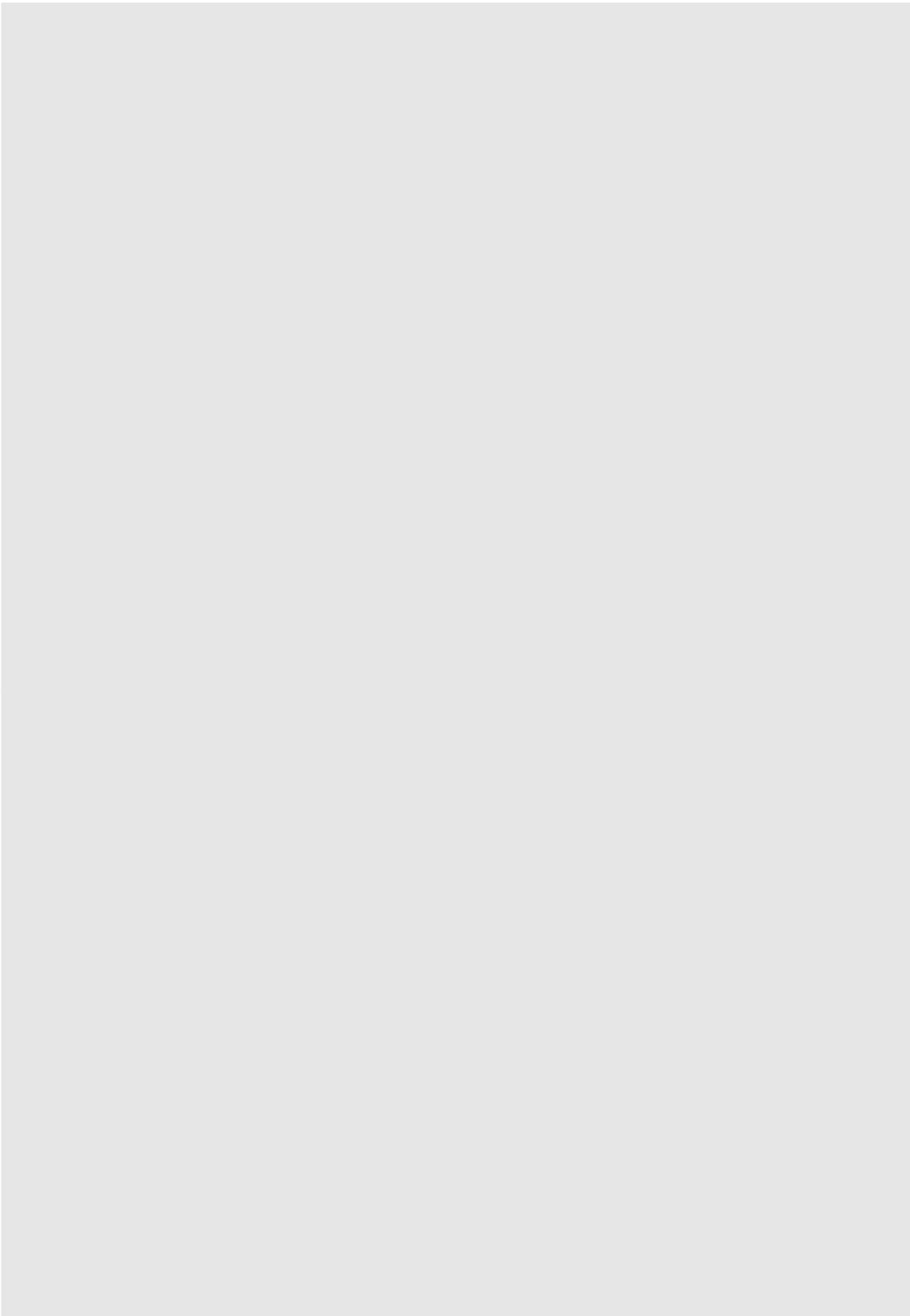
あらゆる意味に於いて、石橋氏は学芸保護者であり、日仏友好関係を促進するに最も優れた適任者である。ヴェニス・ビエンナーレの日本館を建設整備したのも、同じく東京の日仏会館に対して非常に寛容な協力を示したのも氏にほかならぬことを想起しなくてはならない。氏は常に貴重な作品の到来を待構え、松方氏や福島氏の集めた二つの莫大なコレクションからも19世紀と20世紀のフランス絵画を多数その美術館に吸収した。のみならず氏は、また、ヨーロッパやアメリカでも、好ましいと思ったもの或いはその美術館を豊富にする為に必要なりと判断した作品を購入した。かくの如くして疑いもなく、東京に於ける最も美しき西洋美術の蒐集を創りあげると同時に、氏

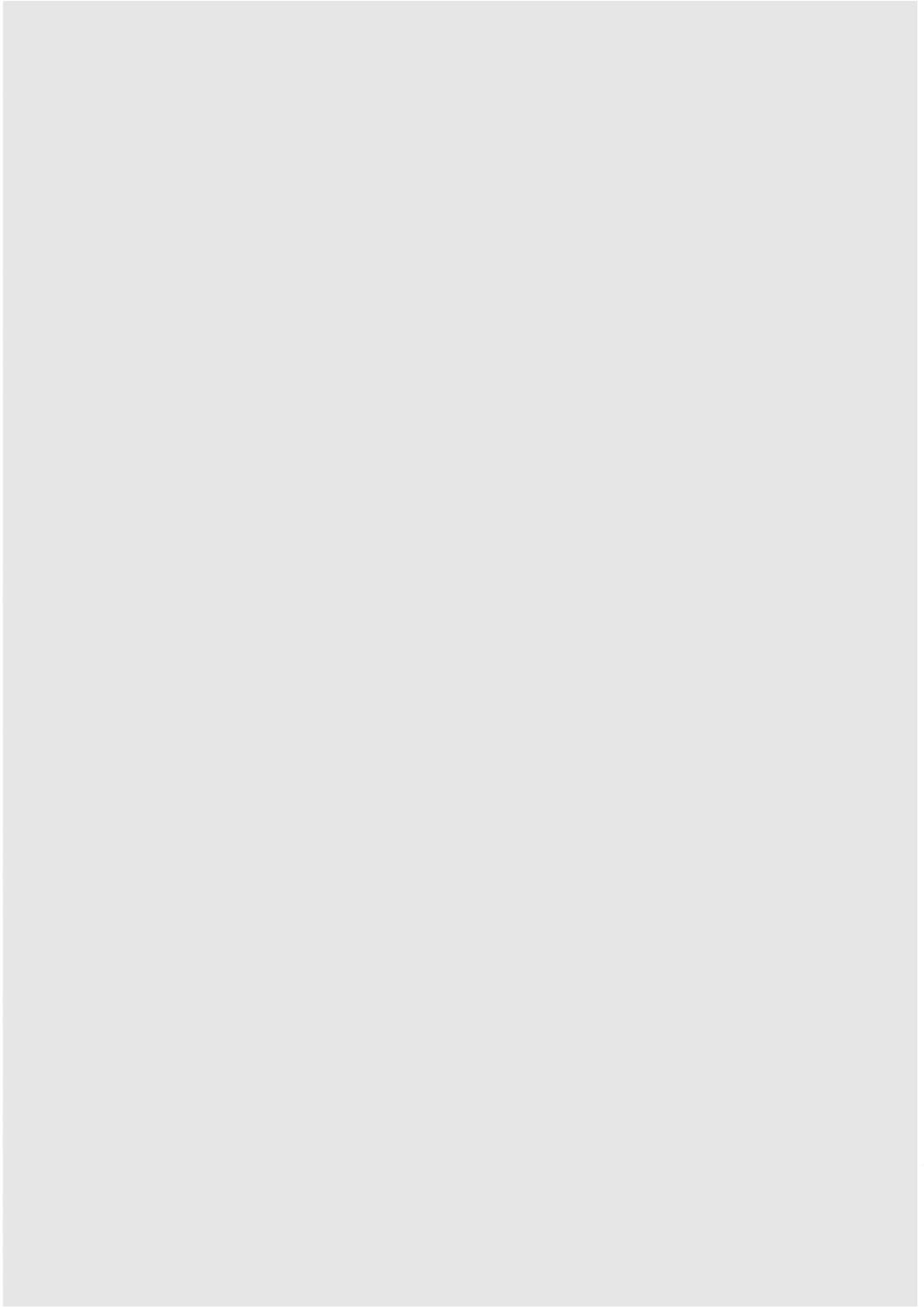
は、また、その美術館で展覧会や講演会を催し、文化開発に熱心なこの都会の最も活発な文化の中心の一つを造ったのである。ザッキン展 (1954 年)、マチス展 (1954 年)、ブルデル展 (1956 年)、ピカソ展 (1957 年)、ルオー展 (1958 年)、リュルサ展 (1958 年)、パウル・クレー展 (1958 年)……その他の展覧会はこの美術館の衰えなき活動力を証明したもので、ザッキン、グロピウス、ジョルジ・サール、レイマリー、スーラージュ、ハンマヘル、リュルサ、のごとき西洋美術界に於ける主要な人物もこの美術館を訪れ、それについて語ったのであった。好奇心に沸騰し、美術に対する熱情が狂乱とも云うべき程度に達しているこの巨大な都会東京に於いて、ブリヂストン美術館は恐らくはフランスの近代並びに現代絵画の最高殿堂であり、それ等の作品は最も輝やかしく光を放つのである。

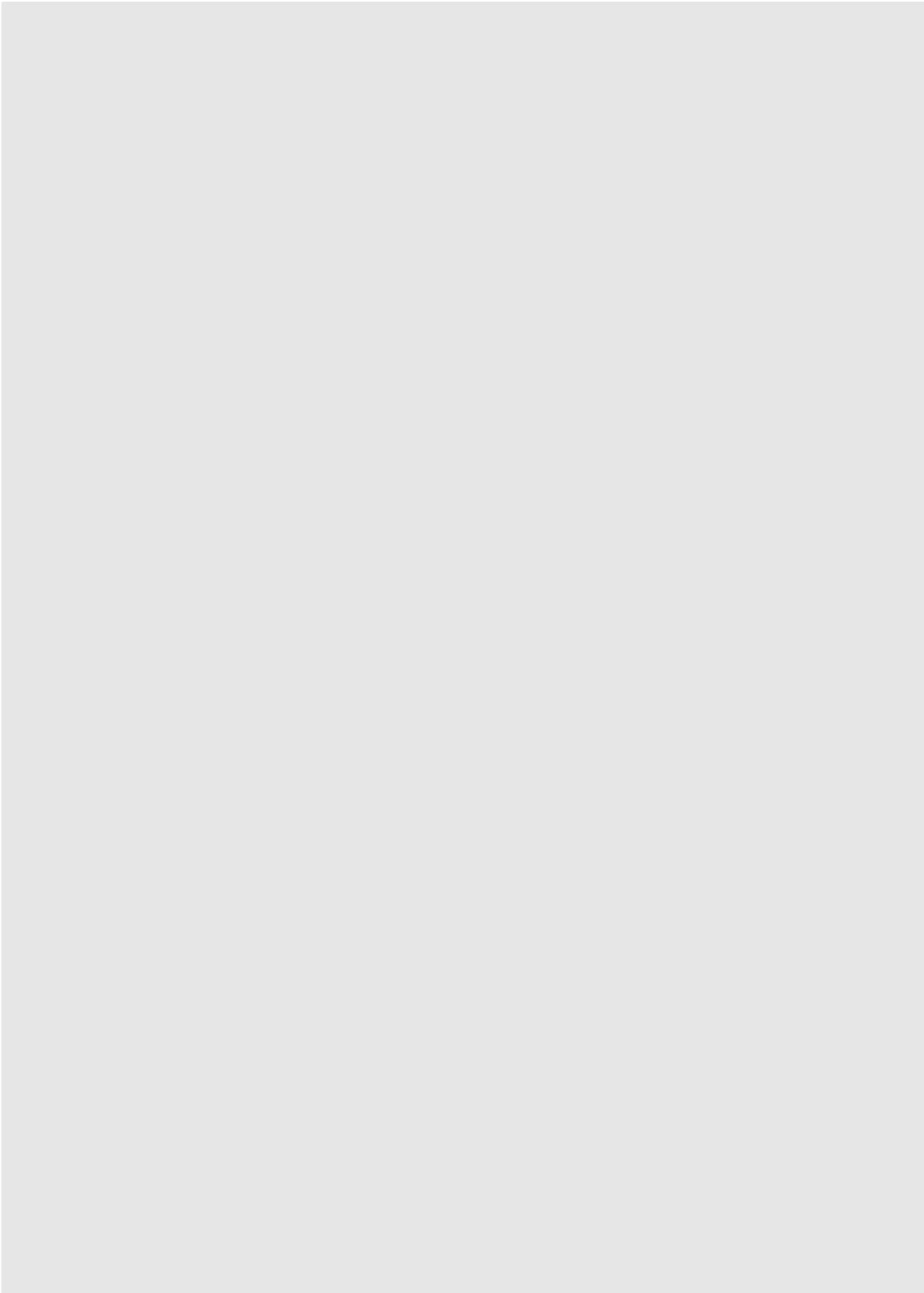
石橋氏、団氏並びに運営委員の方々が 8 週間から 10 週間にわたり、フランス人の眼を楽しませるために、その美術館の傑作 50 点を鑑賞する機会を日本人から剝奪したことは、この人々のフランスに対する友好の真意を物語るものである。この 50 点の作品にフランス人が示す親愛の情こそは、この友情の表明に対する答礼であり、そうして日本とフランスの、また益々めざましく進展する今日の文化の、最も大なる幸福のために、さらに強固な絆がここに発生することを私は信じるのである。

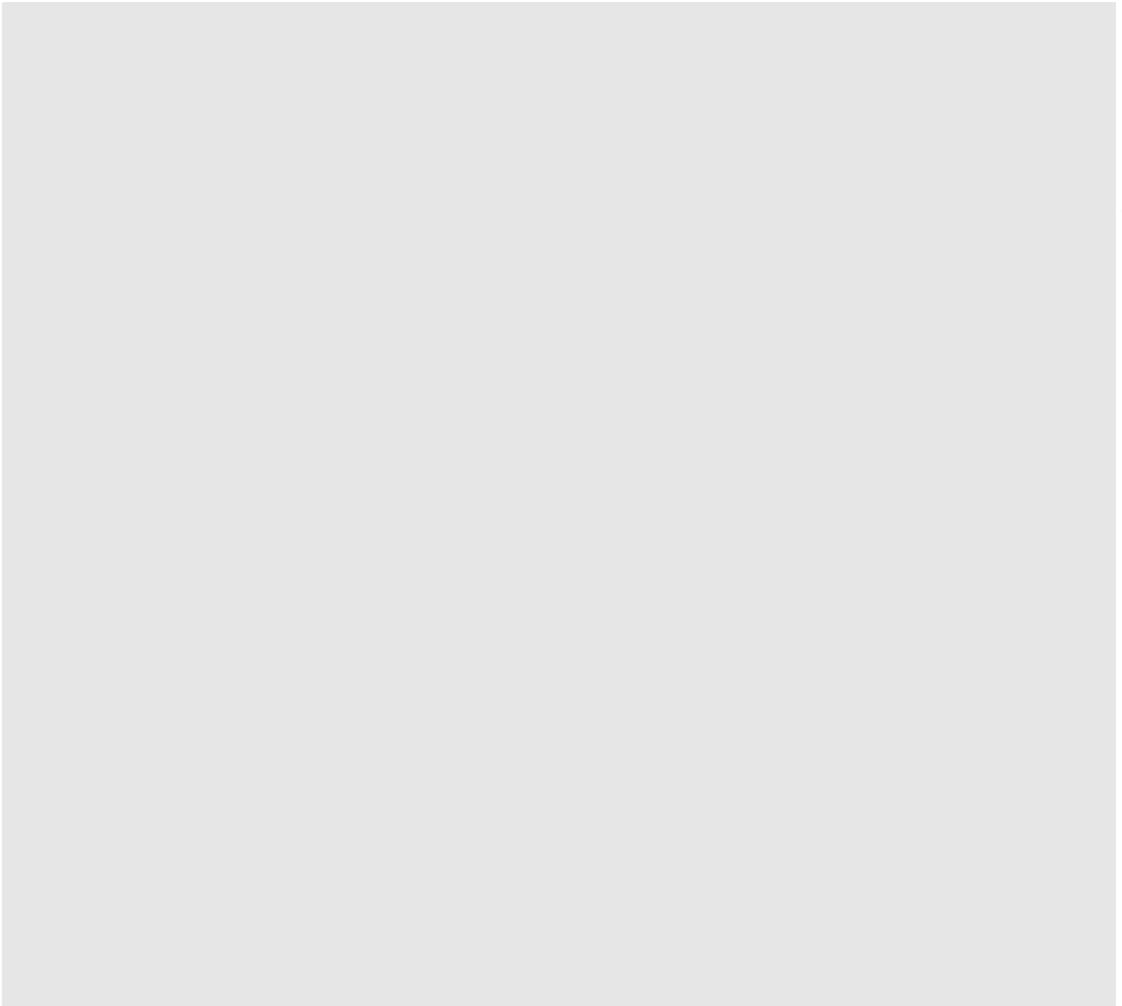
ベルナール・ドリヴェル

パリの諸新聞に現われた「石橋コレクション展」の反響









画 題 変 更

渡仏作品の目録は「渡仏名画展目録」と同一であるが、フランスに行って調査の結果、画題の変更したものを記す。(尚 No. は渡仏名画展参照)

		(旧 画 題)	(改正画題)
2	コ ロ ー	ツータン農場	オンフルールのツータン農場
3	〃	瓶を持つイタリーの女	イタリーの女
9	ピ サ ロ	ポントアーズの菜園	菜 園
12	シスレー	マルロットの村の道	森に行く女達
18	モ ネ	洪水	アルジャントイユの洪水
19	〃	海 (ブルターニュ・ベリール)	ベリール・アン・メールの荒海
21	〃	ヴェニス夕陽	黄昏 (ヴェニス)
25	ル ソ ー	牛のいる風景	牝牛と牧人
26	〃	飛行船のある風景	イヴリー河岸
28	ゴ ー ガ ン	女の顔	若い女の顔
29	〃	ブルターニュ風景	ポントヴェン附近の風景
30	シニヤック	港	コンカルノー港
31	ボ ナ ー ル	夜の室内	灯 下
34	〃	ヴェルノン風景	ヴェルノン附近の風景
36	マ チ ス	コリウール海岸	コリウール
39	〃	オダリスク	両腕をあげたオダリスク
41	ル オ ー	裁 判	裁判所のキリスト
42	ヴラマンク	風 景	運 河 船
46	ピ カ ソ	風 景	生木と枯木のある風景
48	〃	卓子掛の上の静物	茄 子

1962

昭和37年度記録

ブリヂストン美術館

東京都中央区京橋 1-1
TEL. (561) 6317, 5315

BRIDGESTONE GALLERY

1-1 KYOBASHI, CHUOKU, TOKYO, JAPAN



東京都中央区京橋1ノ1
ブリヂストン美術館